資料５

人と人をつなぎ、
つながりが生まれる地域へ

地域と学校のネットワークづくりから考える

社会教育人材の役割と活躍の場

「社会教育人材ネットワークを活用した地域づくり活性化事業」検討会議

なかしべつ町民活動ネットワーク　代表　本間玲子

人口減少が続き、
課題は増えるいっぽう
動ける人が限られるようになる。

ネットワークができれば、
「仲間がいる」心の支え合いで
一人ひとりが力を得られる。

ゆるやかなつながりをつくることで
「〜しやすく」なるー

北海道の人口・世帯はどう変わってきたのか
国勢調査結果で考える、これからの地域のつながり

2015年から2025年の10年で…

人口は

7.5%減少

一般世帯は

1.0%増加

単独世帯は

19.6%増加

65歳以上の単独世帯

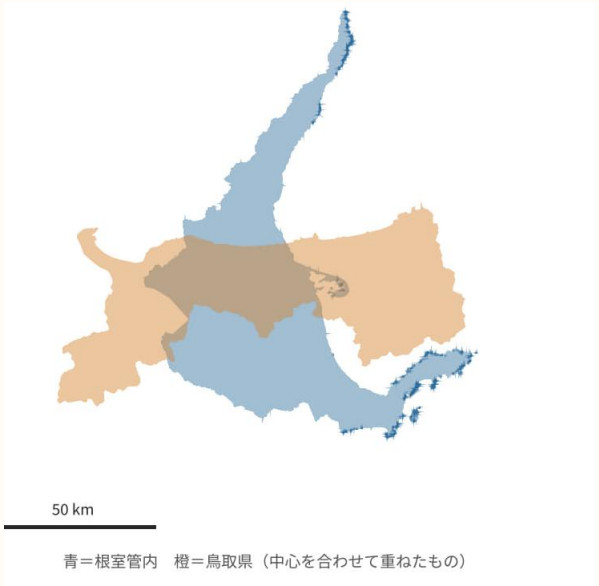
24.9%増加

出典：平成27年・令和7年国勢調査

国勢調査結果で考える、これからの地域のつながり

根室地方は、どのような役割を果たしているのか？

1市4町　鳥取県（約52万人）とほぼ同じ面積



人口　約65,000人

出典：令和7年国勢調査

生乳生産量　全国の約1割
全道の約2割

出典：ホクレン生乳受託実績

水揚げ額　514億6700万円

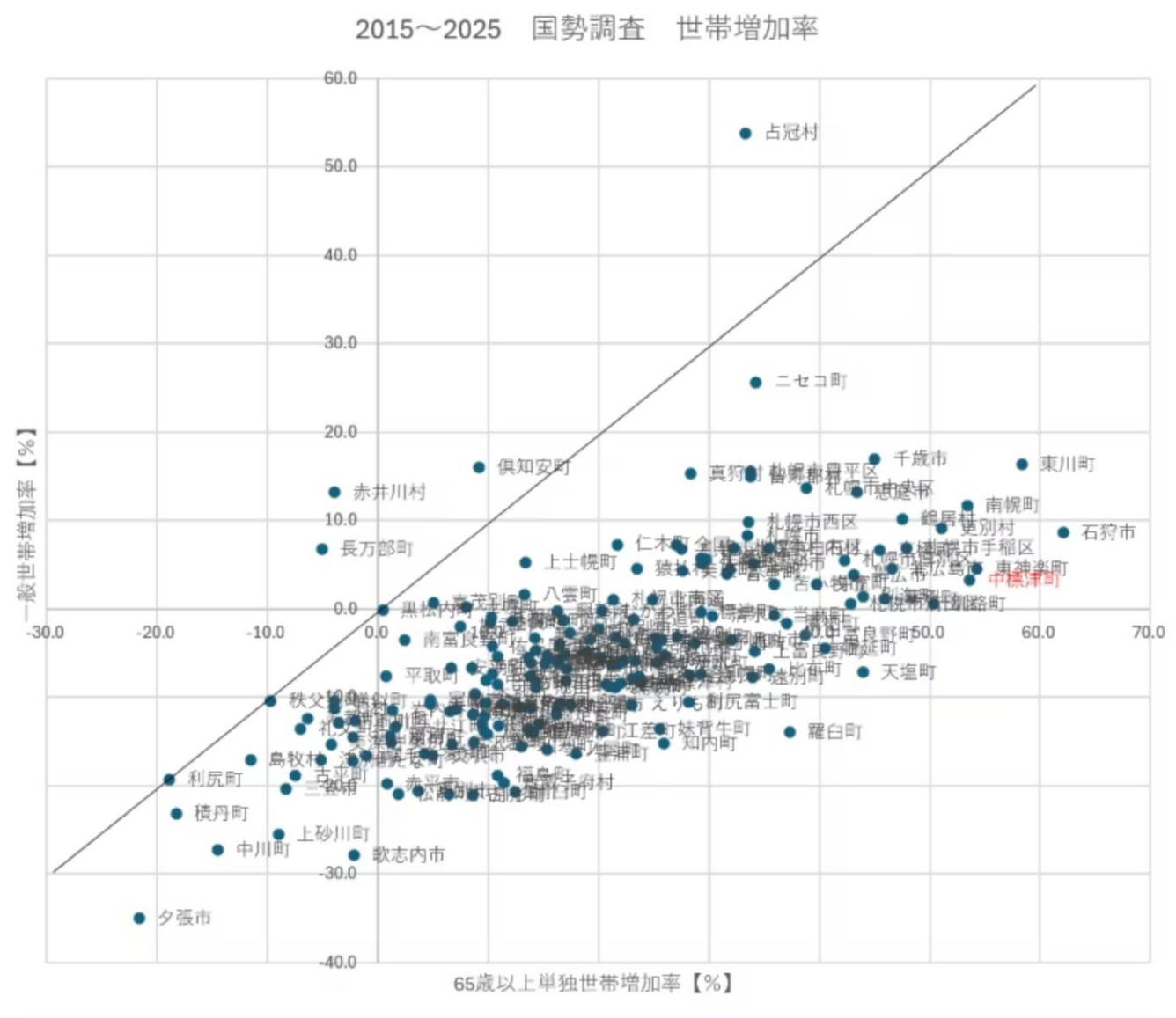
出典：根室振興局令和7年漁業生産状況（速報値）

※中標津町の小売業年間商品販売額は、道内の町村で1位

出典：令和3年経済センサス-活動調査

出典：平成27年・令和7年国勢調査まちによって、置かれている状況は違う

北海道の広域性
まち・地域によって、置かれている状況が違う



世帯の変化から、日常のつながりを考える

仕事とコンビニ以外で
誰かとあいさつを交わす
機会は？

家族や友人と
直接会って話す頻度は？

職場の人以外と
雑談をすることは
ある？

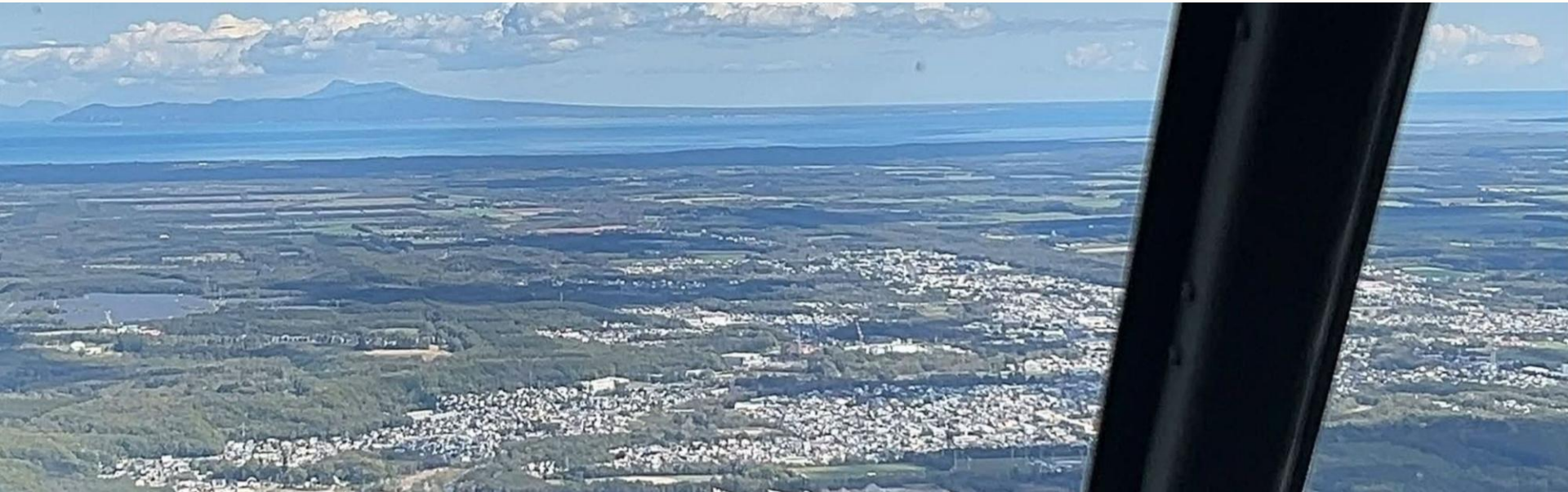
困ったとき、
相談できる人は
同じまちにいる？

必要なときに、人とつながることができる地域になっているだろうか？

人々の持つ力を、地域のチカラに

- 札幌出身　元中学校教員　現専門学校講師
- 保護者としてPTAに参加

  多様な職種や地域の人との出会いから、できることが広がると実感
- 学校運営協議会から地域コーディネーターへ
- 中間支援組織の立場から、学校と地域をつなぐ



はじまりは「現場のニーズ」と「問いかけ」

現場の声を聞き、必要な人や団体とつながる。

進め方

1. 学校からの依頼を受ける
または課題の仮説を立て、
聞いてみる
2. ニーズが確認できたら、
解決方法を考える
3. 必要な人や団体をつなぐ

【実践例】

- 登下校の見守り
- ふれあい花壇
- 地域の人と児童との対話
- メンタルヘルス授業
- 宿題おわらせ隊・ぼうさいクッキング
- ファシリテーション研修

事例① 研修会から生まれた「保護者の会」

学校の先生方に、不登校対策のニーズを確認

↓

先生・保護者向けの研修会を開催

↓

参加した保護者が主体となり、団体設立

↓

学校メールで、集まりの案内が配信される

- 保護者：話せる場がある安心
- 学校：保護者をつなげられる安心

事例② つながりが生まれる出会いの場づくり

学校との接点を求めていた地域の専門職

- 一般の人も参加できる学校教育関係者向け研修会を紹介
  「学校とつながりたい」というニーズを聞く
  オンライン受講が可能な研修会に、あえて対面会場を設置
  新たなつながりが生まれ、途絶えていた集いも復活

新たな出会いの場をつくる。

事例③ 社会教育士の活躍の場をつくる

研修での出会いから、地域での講座へ。人材の力と、地域の機会をつなぐ。

1. 社会教育士フォローアップ研修に参加
2. 来町予定の社会教育士らが持っているスキルを知る
3. 来町の機会に合わせて講師を依頼
4. 地域で講座を実施

地域の学びの機会

社会教育士の専門性を生かす場

放課後先生とおしゃべりをしていたら、地域との連携が増えました

放課後ほっとタイム

～おしゃべりして、リフレッシュしませんか？～

お風呂に入っていたら、突然ひらめいたことはありませんか？
たわいのない話から「こんな学びのために、こんな地域の人がいてほしい！」というアイディアが生まれるかも。新しく来た先生は、趣味のサークルやおいしいお店の相談にも乗りますよ。

フォームでの
お問い合わせも
受け付けています



月１～２回　水曜日

15:30～16:15

１階　アトリウム

※主任児童委員として
子ども・家庭に必要な行政支援の橋渡しも承ります。
（守秘義務あり）

地域コーディネーター　ほんまより

社会教育人材の役割は、カタリスト

カタリスト（Catalyst）

＝触媒

化学反応の速度を早めるもの。

- 人と人をつなぐ
- 人と組織、異なる分野をつなぐ
- 出会いの場をつくる
- それぞれが持つ力を引き出す
- 新しい活動や協働が生まれるのを促す

自分がすべてを担うのではなく、つながりから変化を生み出す。

CHALLENGE

課題：だれでもすぐカタリストにはなれない

- 得意分野や特性、担える役割は一人ひとり違う
- 専門職ではない場合、時間や労力に限界がある
- 特定の人に負担が集中すると、活動の継続が難しくなる
- **つなぐスキルを学ぶ機会は十分とはいえない**

つなぐ人を育てることと、つなぐ人を支えることはセット。

ネットワークができることで

提言① つなぐ人と、つながる場を増やす

ことができるのではないか？

現状では、クチコミでしか社会教育人材の情報を得られない

1 学ぶ機会

人と人をつなぐスキルを学び、実践を通して学び合う。

2 活躍する機会

専門性や得意分野を生かせる場をつくる。

3 支える仕組み

一人で抱えず、役割を分担し、相談・協力できる関係をつくる。

4 続けられる環境

それぞれの関心や特性に応じて、無理なく関われるようにする。

ネットワークができることで

提言② 分野を越えたネットワークへ

拡大できるのではないだろうか？

人と人をつなぐ役割はさまざまな分野で必要とされている。

コミュニティ
ソーシャルワーカー

生活課題を抱える人と
地域の支援をつなぐ

生活支援
コーディネーター

住民や団体をつなぎ、
地域の支え合いや活動を生み出す

集落支援員

住民同士の話し合いを促し、
地域の取組を支える

中間支援組織のスタッフ

市民、団体、行政などの
間をつなぎ、協働を支える

「社会教育×◯◯」で、分野を越えてつながる。つなげる。

人・場・ネットワークを一体的に育てる

人

つながりを
生み出す人材を
育てる

場

人が出会い、学び、
力を発揮できる
場をつくる

ネットワーク

人や組織、
分野を越えて、
学びと実践を
支える

一体的に強化することで、
人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環へ。

出典:中央教育審議会生涯学習分科会
「社会教育の在り方に関する特別部会」(令和8年5月資料)

誰もが住みやすいまちに。
それをつくるのは「人」。



人口減少が続き、
課題は増えるいっぽう
動ける人が限られるようになる。

ネットワークができれば、
「仲間がいる」心の支え合いで
一人ひとりが力を得られる。

ゆるやかなつながりをつくることで
「～しやすく」なる。

一人ひとりの力が生きる地域になっていく。